

水は命の源

「水不足によって苦しんでいる人がたくさ
んいる。」こんな話を、誰でも一度は耳にし
たことがあると思う。けれど、日本では私を
含め、水不足によって苦しい生活を送ること
になった人は、そう多くはいないだろう。日
本では、きれいな水道水を飲むことができる。
調べるとこんな国は、世界中で十五か国しか
ないらしい。海外旅行に行つて、水道の水を
飲むとお腹を壊したという話を聞いたことが
ある。日本では、毎日きれいに浄化された水
を飲むことができているから、体に合わなか
ったのかもしれない。それは、とても幸運な
ことだと思つた。蛇口をひねればきれいな水
が出てくることは、世界規模で考えるとま
たく当たり前ではないのだ。

一九九二年、ブラジルのリオデジャネイロ
で行われた、地球サミットという国同士の会

天理市立福住中学校 三年

永井 咲良

議で、「世界の水不足」について取り上げら
れた。水道水が使えない国では、ミネラルウ
ォーターを使つて暮らす人が多いけれど、そ
れも手に入れることができない人は約八億人
もいるそうだ。彼らには、往復四時間の水く
みが毎日続き、しかもその水はきれいなもの
ではない。その水を飲み、病気になつてしま
う子供たちも大勢いる。水不足の生活をして
いる人や、世界中への影響を知つてもらおう
と決められた国際デーがある。毎年三月二十
三日の「世界水の日」だ。

私がこれを初めて知つたのは中学一年生の
時。ガールスカウトに入つていた私は、水に
ついて勉強すればもらえる、「ウォーターバ
ッチ」をもらうために、友達と一緒に取り組
んだ。まずは、水がないとどうなるのか、自
分に置き換えた考えてみた。一日で一番水を
使っているのは、お風呂だ。お風呂が何日も

使えないと、もちろんお風呂に入りたいたいと思
うし、病気の元になるかもしれない。飲み水
もないと困る。水がなくては人は生きていけ
ない。では、本当にこんな暮らしをしている
人もいるのか、と気になった。そして、図書
館やネットで調べて、ユニセフの活動を知っ
た。ユニセフでは、子供たちの命と健康を守
るための日本の団体だそうだ。いつでも安全
な水を使うことができるように、各地に水を
送っている。ホームページには、茶色く濁っ
た水を飲む黒人の写真があつた。「どんなに
汚くても、この水を飲むしかない。」私はこ
の言葉がとても印象に残つた。私たちの日常
生活からは、見えていないだけで、こんな水
を飲んでいる人がたくさんいるのだと知つた。
周りの友達もとても衝撃を受け、自分たちの
力で、水不足を伝える活動をしようと思った。
まずはユニセフの活動の中で、ガールスカ
ウトができることはないのか調べた。水を届
けることはできないとしても、「募金」がで
きるものがわかり、駅前や人の多い公園で募
金をすることにした。水をきれいにする薬や
手押しポンプを寄付するために、たくさんの

人が協力してくれた。時々人が立ち止まり、
ポスターを見てくれると、それだけで水不足
の問題を少し小さくできたのではないかとさ
え思えた。

これらの活動の結果、私はウォーターバツ
チをもらった。私たちの募金で、水不足の問
題を知ってくれた人、実際に寄付したものを
使うことができた人がほんの少しでもいれば
とても嬉しく思う。そして、きれいな飲み水
があるこの国を、いつか水不足に陥らせない
ため、少しずつ節約していきたい。水は命の
源だとも言えるから。「世界水の日」の活動
を、私も少しできたかなと思う。

水が当たり前にあることに感謝して、この
体験で知ることができたことを大事にしてい
きたい。